

遊びの中に「学び」 保幼小接続考える

永平寺町で講座

幼児期と児童期の教育のスムーズなつながりを目指す県

幼児教育支援センターの「保幼小接続講座」が10日、永平寺町の県立大永平寺キャンパスで開かれた。写真。県内の教諭らが遊びの中にある学びを見逃さず、記録して伝える大切さを学んだ。

小学校と幼稚園両方で勤務経験のある鳴門教育大学院



の木下光二教授が「学びと育ちをつなげる保幼小接続」を

テーマに講演した。保育士や幼稚園教諭、小学校教諭ら約370人が参加した。

木下教授は幼児期と児童期を結ぶキーワードは「記録」と説明。保育士や幼稚園教諭が遊びの中に芽生えている学びを記録し、小学校の先生に伝えることが鍵になるとした。小学校の教諭には「幼児教育の現場をときどきのぞいて、互いの教育の良いものを共有してほしい」と話した。

遊びの中にある幼児期の学びについて「色水遊び」を例に説明。着色用の材料を用意するよりも、園庭の草花を活用するなど園児たちが試行錯誤しながら遊ぶ方が多様な学びがあり、児童期以降の教育の充実につながるとした。(土山実穂)